2022-2023 年度 RI テーマ

第 2780 地区　ガバナー
佐藤　祐一郎

第 3 グループガバナー補佐
永松　秀行

イマジン
ロータリー

Rotary

2022-2023 年度
藤沢ロータリークラブ週報

■創　立　／　昭和 29 年 6 月 3 日　　■第 68 代　会長　／　廣島　純　　幹事　／　鈴木　大次
■事務所　／　藤沢市藤沢 93 新堀ライブ館 204　TEL：0466-25-4000　FAX：0466-26-9292　E-mail：info@fujisawa-rotary.com
■例会日　／　毎週水曜日 12:30～13:30　　■例会場／　湘南鎌倉クリスタルホテル TEL：0466-28-2111

NO.16　第 3274　例会　２０２２年　１１月　２日　天候　晴れ

国家「君が代」
ロータリーソング「我らの生業」
「四つのテスト」　阿部　且弥　会員

≪ゲスト・ビジターの紹介≫

卓話ゲスト：小林　拓海　様
（2021-22 年度 R 財団グローバル奨学生）
小尾　優美子　様
（2780 地区平和フェロー・奨学金委員/かながわ湘南 RC）

ゲスト：吉田　芽衣　様
（2023 年度青少年交換候補生/湘南学園中学 3 年生）
吉田　一騎　様（吉田芽衣さんのお父様）

ビジター：中野　博義　様（東京南 RC）
中山　冨貴子　様（前年度 2780 地区平和フェロー・奨学金委員長/茅ケ崎 RC 会長）

≪会長報告≫

・10 月 30 日(日)、国際交流フェスティバルで、かながわ湘南 RC とふじさわ湘南 RC がブースを出しました。ポリオ募金を募り、もつ煮を提供し、風船を配布しました。家族で顔を出して参りました。
・コンピュータウィルスの件でお話します。先日、ニュース速報で報道された事件がありました。大阪の病院でランサムウェアによる攻撃があり犯行声明が送られました。身代金犯罪というのはかつては誘拐で、人の命を人質とした事件でしたが、今回の事件もまさに人の命を預かる病院の情報を人質とした身震いするほど悪意を感じるものです。病院に限らず、我々事業者もいろいろなサービスを顧客に提供することによって生業を立てておりますので、人とでは済まされません。
皆様も大事なご商売の中で、このような危険にさらされる機会がないとは限りませんのでお気を付け下さい。情報を生業としておりますので専門家をご紹介することもできます。ご相談ください。

≪幹事報告≫

・国際交流フェスティバル、ポリオ募金の募金額は 55,171 円でした。ご協力ありがとうございます。
・例会後、理事役員会を開催致します。理事役員のご出席お願い致します。
・10 月 26 日、地区戦略計画委員会開催で、私が出席致しました。11 月 8 日、地区財団関連合同委員会大小原副委員長と私が出席です。11 月 12 日、IA 委員会には、杉原委員が出席予定です。

出席報告　（　　）内は計算に用いた会員数
＋〔　〕は Zoom 出席者

例会月日	会員数	出席会員数	欠席会員数	出席率	メークアップ会員数	修正出席者数	修正出席率
10月25日	42(39)名	25名	14名	64．10%	2名	26名	66．67%
11月2日	42(39)名	25名	14名	64．10%			

≪お祝い≫

会員誕生日　10 月 26 日　山本　竹範　会員

≪スマイル報告≫

小尾　優美子　様（かながわ湘南 RC）

今日は、最近までイギリスで財団奨学生として学ばれていた小林拓海さんに卓話していただきます。よろしくお願いいたします。

中山　冨貴子　様（茅ケ崎 RC）

茅ヶ崎 RC 中山です。本日は平和フェロー・奨学金委員会の小尾さんと小林拓海さんの卓話と伺い、メイクさせて頂きます。

廣島　純　会長

小林様、小尾様、本日はよろしくお願いします。

吉田様、例会楽しんでください。

茅ヶ崎 RC 中山様、東京南 RC 中野様ようこそ。

木島　英夫　会員

長寿会員表彰をいただきましたので。

卒寿まで　仕事が待つぞ　十三夜

椋梨　兼彰　会員

中山様、本日はようこそ。

小林様、小尾様、卓話よろしくお願い致します。

吉田芽衣さん、お父様、試験頑張って下さい。

小澤　智幸　会員

小林様ようこそ。本日の卓話、お願い致します。

鈴木　大次　会員

小林様、本日の卓話宜しくお願い致します。前年度平和フェロー・奨学金委員長中山様、今年度平和フェロー・奨学金委員小尾様、本日はありがとうございます。

吉田芽衣さん、試験頑張って下さい。

東京南 RC 中野様、ようこそ。

新堀　きよみ　会員

本年もふじさわジャズミーティングが、11 月 5 日開催となり、新堀からはダンロクと続いて「100 人サックス」が出演させて頂くこととなりました。サンパール広場で 12：00 くらいからの出演予定です。皆様にお楽しみ頂けましたら、幸いです。

≪小話　3 分間スピーチ≫

村石　順　会員

11 月 20 日から始まるサッカーのワールドカップについてお話いただきました。スタジアムに実際に足を運ばれて、応援している選手が日本代表に選ばれず残念だったことや、事業所が公式スポンサーであること、会場となるカタール開催は、29 年前の「ドーハの悲劇」を目の前で見た身としては、現地に行きたい思いを語っていただきました。皆様、テレビ観戦で応援よろしくお願い致します。にわかファン大歓迎だそうです。

椋梨会員より、2023 年度青少年交換候補学生の吉田芽衣さんをご紹介いただきました。

≪卓話≫

ロータリー財団月間卓話

「介入と不介入 ～国際社会と民主化の試み～」

2021－22 年度 R グローバル財団奨学生

小林　拓海　様

お題について

戦争に対して国際社会がどのように反応するかということは近年非常に重要な課題となっています。本稿ではいくつかの事例を振り返りながら、その問いに対しての解決の糸口を探していきたいと思います。

冷戦終結までの国際社会と紛争の関係

冷戦中は国際社会が一丸となって、一つの国の政情不安や人道危機に対して積極的に介入をしていくということが困難でした。それは大きな軸となる国連の安全保障理事会（以下：安保理）において拒否権を持つ英・米・仏と中・露との間の対立に起因していました。このような図式から、朝鮮戦争のような直接的な対立を避けるべく、相手方のブロックには介入をせず、自らの安全保障を脅かすような地域が鞍替えしそうになった際に武力を用いるというのが当時の大国の対外政策の根本にありました。この傾向は冷戦終結直後まで見られ、ポル・ポト政権下のベトナムやルワンダ内戦に対する国際社会の不干渉は大規模な虐殺事件という形で失敗に終わり、大きな汚点を残したのでした。また、ボスニアにおいても、介入の程度はルワンダより高かったとはいえ、限定的な介入政策が 8000 人にも及ぶ犠牲者を出したとされるスレブレニツァ虐殺を招いたとされました。このようなことから人道危機に対して国際社会は積極的に対応するべきだという考えが広まっていきました。

積極的介入政策の功罪

90 年代半ばになると、先述の事件の反省や冷戦の終結による国際関係の変化によって、国際社会が一丸となって一国の問題に取り組むような積極的な介入政策が見られるようになりました。具体的には、人道危機が発生している国々に対して、武力の脅威をも用いてその危機を止めさせるとともに、持続的な平和のために民主的な政権を樹立するという形です。例えばボスニア内戦においては、先述のスレブレニツァ虐殺を踏まえ、セルビア人勢力に対して大規模な空爆を開始し、最終的にはデイトン合意と呼ばれる和平協定が 1995 年に結ばれることとなりました。近隣のコソヴォにおいても同様で、NATO による空爆の後に紛争が沈静化すると、親露派のセルビアの領域内においても NATO 軍が駐留するなど冷戦終結前には考えられなかったことが起こりました。

短期的には戦争を終わらせるのに効果的な施策に見えたこのような介入政策ですが、もう一方では時を経るごとに様々な問題が顕在化していきました。その一つは犠牲者の増大です。コソヴォでは誤爆による死者が数多く出てしまったとともに、西洋諸国の介入に伴い、セルビアも強硬化してしまうなど、かえって被害が増大してしまった側面もありました。また、実際に戦争が終結し、新しい「民主的」な政権が樹立されても、持続的な平和の構築が非常に難しいことが分かってきました。例えば、アフガニスタンでは民主的な政権が汚職や機能不全から盤石な基盤を築くことができず、2021 年の夏には主たる反政府勢力であるタリバンに再び国土の大部分を掌握されて、それまでのプロセスが水の泡と化してしまいました。この事例は、国際社会のコストというもう一つの大きな問題をも明らかにしました。とりわけ、アメリカは 20 年間にわたってアフガニスタンに関与をし、膨大な金額をつぎ込んだとともに、反政府勢力との戦闘で多くの犠牲者を出してしまったのでした。さらにこうした事例を経ていく中で、誰が武力介入の可否を決定するべきなのかという点にも相違が見られるようになりました。例えば、2003 年のイラク戦争においては英米が中心となり、中・露・仏の反対を押し切り、国連安保理の承認を得ない形で武力行使に踏み切りました。無論、イラク戦争に関しては最大の根拠となった大量破壊

兵器の証拠が見つからず、侵攻には多くの疑問符が付きましたが、各国の思惑が交錯し、安保理での議論が平行線を辿った時にどのように解決の糸口を探るべきなのかという点は課題として見えたのではないかと思います。人道危機が起こった際に、大国との結びつきが当事国への国際社会からの圧力の度合いを決定づけてしまうという点は不条理であると言ってもよいでしょう。

締めの言葉：今の紛争にどう向き合うか？

戦争を止めるにはどうすれば良いのかという問いについて。戦争を止めるための戦争を行うこともただ静観をすることも、どちらにもリスクが伴い、国際社会としてどう対応するべきかというモデルケースがまだ見えていない状況です。実際、ミャンマーでは軍部によるクーデターとそれに伴う人権弾圧が見られているものの、国際社会が毅然とした態度でその状況に向き合えているとは言えません。また、2000 年代初頭までの動きと比較しても、2010 年代から現在にかけての世界情勢はさらに緊迫したものとなっています。2014 年からのロシアによるウクライナ侵攻に象徴されるように、大国同士が主体となって戦争に関与し、戦争の早期終結が見込めないような事例も出てきています。実際、国連の安保理も機能停止をしてしまい、国際社会の無力さが露呈した形となっています。核の脅威もさらに高まる現代社会において、戦争がもたらす被害の大きさは計りし得なくなっています。そのような中でいかに未然に戦争を防ぐか、そして勃発してしまった場合にいかなる介入の方法で終結を図るかということが依然とても大きな課題になっていると言えるでしょう。

小尾様より、小林様をご紹介いただきました。
小尾様は、財団奨学生 OG で、藤沢 RC が推薦クラブでした。当時のカウンセラーは、岩崎会員のおじい様　岩崎裕俤会員だったそうです。

廣島会長より謝辞

東京南 RC　中野様
本日もありがとうございました。

小島名誉会員がご来会。一緒に入っていただきました。

茅ヶ崎 RC　中山会長
昨年度地区平和フェロー・奨学金委員長でいらっしゃいました。

本日のお食事